



第18航空団広報局発行

如月

きさらぎ



(写真全て、米空軍チャッド・ウォーレン一等兵撮影)

## 二月はジョガーカーの季節！ 嘉手納基地もおきなわマラソンを支援しています

(次ページに掲載)

旧正月も終わり、暖かな日々が続く2月となりました。嘉手納基地は今満開の桜の季節を迎えています。基地内沿道には多くの桜の木が植えられていますが、特に、第3ゲートから入ったダグラス通り沿いの桜は一段と目を引きます。この時季、基地内の住人が散歩の途中、鮮やかなピンクの花に足を止め眺めたり、また写真をとったりする風景もみかけます。桜の木の下で宴会 カラオケなどないのが、嘉手納基地流花見です。

今月のビッグイベントはやはり沖縄マラソンです。  
2月22日（日曜日）、数千人のランナーが基地内を走り抜けます。ランナーのみなさん、がんばって下さい。  
夏には7月4日のアメリカフェストも開かれる予定です。

### Part I

嘉手納基地の桜満開

第17回 2009年 おきなわマラソン

アメリカンカルチャー  
マーティン・ルーサー・キング・デー

### Part II

#### !!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員に  
スポットをあてて毎月紹介して行くコーナーです。  
意外な発見があるかも...必見です！

F-22A 報道陣に公開

ミート・ザ・ラプター・デー

SAKURA



桜の写真は全て嘉手納基地内で撮影されました。広報局写真部のウォーレン一等兵の作品です。



第17回2009おきなわマラソンが2月22日（日曜日）に開催されます。沖縄市の県総合運動公園をスタート、ゴール地点とする42.195キロのフルマラソンで、嘉手納基地内も通過します。嘉手納基地は29~31キロ地点にあたり、基地内コースの距離は約2.8キロです。米軍基地内をコースに含む日本国内でもユニークなイベントとなっています。

嘉手納基地は協力団体として第1回大会から毎年支援しています。おきなわマラソン実行委員会から沖縄防衛局を通じて米軍に対し基地内道路使用の許可申請手続きがとられています。また、同実行委員会から嘉手納基地に対し、マラソン開催に伴う嘉手納基地内の交通整理、給水所の設置、基地内参加者受付及び募集広報、沿道の応援などへの協力が要請されています。その要請を受け、嘉手納基地内では対策チームを立ち上げ、準備を進めます。準備を行っている関連部隊の「仕事」をご紹介します。第18憲兵中隊は50名以上の軍人を動員して、嘉手納基地内の交通整理を実施します。第18兵力支援中隊は、テント、テーブル、イスを提供設置します。ライズナー体育館事務所は、軍関係者ランナーの申込み受付業務を代行しました。第18施設群は、給水タンク車4台を設置します。同群はランナーの安全のために、道路上に通常設置されているゲートのスパイクを、マラソン当日だけ収納します。第18医療群は、救護所の設置、救急車を配備します。第18航空団広報局は、基地内ボランティアを募り、応援ボランティアに関して説明会を開いたり、基地内広報誌やネットを通じてマラソン参加募集や基地内交通規制を広報します。基地内のマラソンコースに囲まれた地域に住んでいる軍人や家族らは、前日の夜までに自家用車を別の場所へ移動してもらうようお願いしています。またマラソン開催日が日曜礼拝と重なるため、コース内にある礼拝堂の集会時間を変更してもらったり、基地内の住民にお願いの文書を配るのも対策チームの仕事の一つです。

第5ゲート付近では、嘉手納町が太鼓演舞者を含むあよそ100名の町民ボランティアが集まり、給水、救護、応援を行っています。嘉手納基地では嘉手納町民の方々の応援に支障がないよう調整を図っています。対策チームは大会車両の安全な通過、カラーコーンと簡易トイレの設置撤去、地元救急車の通行、そしてマラソン終了後の紙コップなどの後片付け等々が円滑に実施されるよう、おきなわマラソン実行委員会と連絡を取り合いながら、細部の支援作業を進めます。次回はおきなわマラソン大会当日の様子をご紹介します。

*"I have a dream. That one day on the red hills of Georgia, the sons of former slaves and the sons of former slave-owners will be able to sit down together at the table of brotherhood."*

*"I have a dream. That one day on the red hills of Georgia, the sons of former slaves and the sons of former slave-owners will be able to sit down together at the table of brotherhood."*



## 嘉手納チーム、マーチン・ルーサー・キング・デーを祝う

1月16日、マーチン・ルーサー・キング・デーを前に故キング牧師の栄誉を称える昼食会が基地内で行われた。今年、ゲストスピーカーとして招かれたのは、第2世代のタスキー・エアーマンのリチャード・トリバー大佐（退役）。

タスキー・エアーマンとは米軍初の黒人航空兵を示す。1940代アメリカでは、人種差別が色濃く存在し、黒人は無知・無能で勇気が無いとの考え方があった。

そのような社会環境の中、彼らは母国に尽くすため、兵役を志願した。彼らの多くが航空士官候補生となり、精神的且つ肉体的能力に優れた者はパイロット、ナビゲーター、爆撃手等となり、学力に優れた者は、運用、気象、エンジニア、医療等の分野に進んだ。彼らのほとんどが、大卒か

大学に在学中であり、彼らのために米陸軍が基準を下げる事は無かった。 [記：1947年9月18日に米国空軍が創設されるまで空軍は米陸軍の下部組織であった。]

彼らに「タスキー」との名前が付いたのは、アラバマ州にあった米陸軍タスキー飛行場でパイロット訓練が行われたことからである。1941年から1946年の間、994名のパイロットが育成された。

今回のゲストスピーカーのトリバー大佐は、1960年代に入隊した、第2世代のタスキー・エアーマン。彼は、スピーチで、アメリカに混在した偏見、差別、偏狭への平和的抵抗で闘ったキング牧師の情熱を語り、「マーチン・ルーサー・キング・ジュニアはアメリカで今日起きている変化を誇りに思うだろう」と述べた。

F-15戦闘機のテスト・パイロットとして退役したトリバー大佐は、昼食会へ出席した約400人の空軍兵等を前に、「マーチン・ルーサー・キング・デーは偉大なアメリカ、偉大な愛国者、偉大な人類の奉仕者にとって重要な祝賀だ」と述べ、「キング牧師の人類への貢献、公民権運動への指導力は、私を含む多くの人々にとって神の使いのようだった」と振り返った。

「ほとんどの職業分野で未だ偏見が続いている。私も現役時代、米軍の偏見を目の当たりにした。それも、私が米空軍大佐になる直前までだ。しかし、私は、能力、行動力、実績で対抗した。」

しかし米軍は進歩している。30年前は女性のパイロットや将官は存在しなかったが、今では、女性の陸軍大将や女性将官が各軍に在職している。

トリバー大佐は「今が歴史の瞬間だ。意欲的、積極的、献身的に係わるようにしよう」と述べ、出席者へ、アメリカ史上前例の無い歴史的瞬間に立ち会う偉大な機会を十分重んじ、変化を受け入れるよう促した。

そして更に、「最近の出来事を見ると、キング牧師や私を含め、あざましい人種差別や弾圧にもがき、叫び、闘った人々の活動が反映している。私は、今日のアメリカの出来事に胸を躍らせている。それはキング牧師や先人達の夢、また、私がまだ少尉だった頃、人種差別に立ち向った時の希望を反映している」と語った。

### マーチン・ルーサー・キング・ジュニア (Martin Luther King Jr.)

暴力公民権運動の指導者で人種差別に非暴力に抵抗したアフリカ系アメリカ人の牧師。「I have a dream」(私には夢がある)で知られる有名なスピーチをあこなった。1964年のノーベル平和賞受賞者。アメリカの人種差別の歴史を語る上で重要な人物。1968年4月4日に遊説活動中に暗殺された。アメリカでは、彼の栄誉を称え、彼の誕生日である1月15日に近い第3月曜日祝日としている。



1



2



3



4

リチャード・トリバー大佐（退役）

*"I have a dream. That one day on the red hills of Georgia, the sons of former slaves and the sons of former slave-owners will be able to sit down together at the table of brotherhood."*

(写真1)と2:米空軍アンジェリック・ベレスニ等軍書撮影 3と4:米空軍チャップ・ウォーレン等撮影